

事務 事業名	コード1	3400	医療福祉・食・交流の郷づくり事業				課	企画政策課					
	コード2						所属班	政策推進班					
			☑ 主要事業				電話番号	62-5367	内線	215			
政策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	4	心豊かな人と文化をはぐくむまちづくり	4	心豊かな人と文化をはぐくむまちづくり	予算	会計		款	項	目
	施策	1	農業の振興	2	学校教育の充実	6	生涯スポーツの振興	科目	一般会計		02	01	7
	施策の展開	5	交流事業の促進	1	いきいきとした学校生活の創造	1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	根拠	旭市総合計画(リーディングプラン)				
	基本事業	273	都市との交流促進	206	小・中学校交流事業	247	スポーツ交流の促進	法令					

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 18 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	安全、安心な「医療・福祉の郷」、豊かな「食の郷」、自然環境、公共施設を利用した「交流の郷」が一体となったまちづくりを目指すため、各種交流事業を実施する事業実施主体の各担当課へ予算を再配当し、事業を実施する。 ・幽学の里で米作り交流事業、花を活用した交流事業(担当:農水産課) ・旭市・茅野市児童交流事業(担当:学校教育課、生涯学習課) ・スポーツ交流事業(担当:体育振興課) 【業務の流れ】 企画政策課で予算計上を行い、財政課において事業実施主体の各担当課への予算の再配当を行う。各担当課では事業実施主体となる実行委員会等へ補助金を交付し、各交流事業を実施する。

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(24年度の実績)	単位:千円
1.負担金補助及び交付金	0
2.(幽学の里で米作り交流事業補助金)	1,000
3.(花を活用した交流事業補助金)	460
4.(旭市・茅野市児童交流事業補助金)	297
5.(スポーツ交流事業補助金)	1,433
歳入:地域振興基金繰入金	3,188千円
② 延べ業務時間の内訳(24年度の実績)	単位:時間
予算のとりまとめ・ヒアリング、予算書・決算書・監査資料等の作成(延べ16時間)	

単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
事業費				
1.負担金補助及び交付金	千円			
2.(幽学の里で米作り交流事業補助金)	千円	800	1,000	1,000
3.(花を活用した交流事業補助金)	千円	630	1,000	460
4.(旭市・茅野市児童交流事業補助金)	千円	0	297	380
5.(スポーツ交流事業補助金)	千円	704	0	1,433
事業費計(A)	千円	2,134	2,000	3,190
うち一般財源	千円	2,134	2,000	2
正規職員従事人数	人	0.01	0.01	0.01
延べ業務時間	時間	22	16	16
人件費計(B)	千円	84	61	61
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,218	2,061	3,251

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
手段	24年度実績(24年度に行った主な活動) 各担当課(農水産課、学校教育課、体育振興課)へ予算の再配当を行い、次の事業を実施した。 ・幽学の里で米作り交流事業、花を活用した交流事業(担当:農水産課) ・旭市・茅野市児童交流事業(担当:学校教育課、生涯学習課) ・スポーツ交流事業(担当:体育振興課)	ア 実施事業数	事業	3	2	4	5
	25年度計画(25年度に計画している主な活動) 各担当課(農水産課、学校教育課、体育振興課)へ予算の再配当を行い、次の事業を実施する。 ・幽学の里で米作り交流事業、花を活用した交流事業(担当:農水産課) ・旭市・茅野市児童交流事業(担当:学校教育課、生涯学習課) ・スポーツ交流事業(担当:体育振興課)	イ 都市交流としての事業数	事業	2	2	2	2
		ウ 小・中学校交流としての事業数	事業	0	0	1	1
		エ スポーツ交流としての事業数	事業	1	0	1	2
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
目的	市民を含む各交流事業への参加者	ア 交流事業の参加者数	人	2,399	1,684	1,738	1,817
		イ 人口	人	70,138	69,749	69,223	68,725
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
	各交流事業を実施することにより、次の目的を達成することができる。 ・生産者と都市住民(消費者)との交流を通じて、農産物のPRと地域の活性化を図る。(都市交流事業) ・児童の相互訪問を通して、姉妹都市としての相互理解と友好親善を図る。(小・中学校交流事業) ・県内外の参加者に市の特産品等を広くPRし、もって旭市の認知度と好感度を上げる。(スポーツ交流事業)	ア 都市交流事業の参加者数	人	2,085	1,684	1,540	1,390
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 小・中学校交流事業の参加者数	人	—	—	38	27
	各種交流事業を実施することにより、基本構想に掲げられている将来都市像「ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市“旭”」を実現する。	ウ スポーツ交流事業の参加者数	人	314	—	160	400
		エ					
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (計画)
上位目的		旭市は住みよいまちであると感じている市民の数()	%	80.2	—	—	—
		イ 旭市に住み続けたいと考えている市民の数	%	80.7	—	—	—

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
基本構想に掲げた将来都市像「ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市“旭”」の実現に向け、優先すべき重要な政策テーマである「三つの郷づくり」を推進するため、関連する事業を集約する形で開始した。	H22までは、企画政策課で予算計上を行い、各事業実施主体へ補助金の交付等を行っていたが、H23からは、企画政策課では予算計上のみを行い、財政課から事業実施主体の各担当課へ予算の再配当をすることにより事業を実施している。	事業実施主体の各担当課を通して、交流事業の参加者からは概ね好評を得ている。

事務事業名	医療福祉・食・交流の郷づくり事業	課名	企画政策課	班名	政策推進班
-------	------------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 結びついている ⇒【理由】
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 基本構想に掲げられている将来都市像「ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市 “旭”」を実現するため、リーディングプランである「三つの郷づくり」が目的である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 基本構想に掲げられている将来都市像を実現するため、リーディングプランとして優先すべき重要な政策テーマである「三つの郷づくり」に関連する事業であり、行政が主体となって実施すべきものである。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 リーディングプラン「三つの郷づくり」の実現に向けて事業を行っているが、「医療・福祉の郷」、「食の郷」に関連する事業は本事務事業に加えられていない。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 「医療・福祉の郷」、「食の郷」に関連する事業を加えて「三つの郷づくり」として各事業を連携させることにより、活動を工夫することができるので、今以上の成果の向上が期待できる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 リーディングプランであり、市の重要政策として実施しており、他に類似する事業はない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 「三つの郷づくり」に関連する事業を一括することにより、目的が重複している事業の一本化等、実施主体の各担当課において、それぞれの事業内容について判断することができる。
	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 予算の再配当を廃止し、事業実施主体の各担当課において、予算計上等を執行することで、人件費を削減することができる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業実施主体の各担当課において、それぞれの事業内容に基づき判断しているが、内容によって自己負担も求めているため、公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り、反省点) 基本構想に掲げられている将来都市像を実現するための「三つの郷づくり」の実現に向けて事業を行っているが、「医療・福祉の郷」、「食の郷」に関連する事業が加えられていなかったため、「三つの郷づくり」に関連する各事業の連携が取れるような仕組みづくりが必要である。
--	--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止	(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ リーディングプランの柱である「医療・福祉の郷」、「食の郷」、「交流の郷」に関連する各担当課との連携を取る。そのため、「交流の郷」に関連する事業でのみ実施している現状の補助金の再配当をH26年度から廃止し、「三つの郷づくり」に関連する事業が一括で把握できるような表示方法の検討が必要である。さらには、市長の意向を反映させるような各事業の担当者会議を開催する。	成果 向上 維持 低下 コスト 削減 維持 増加 ○
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①将来都市像を実現するためのリーディングプラン「三つの郷づくり」の事業費の明確化が必要であり、関連事業を一括し、基本方針に合わせ区分する。 ②リーディングプランを念頭においたまちづくりの推進といった職員の意識改革が必要である。 ③「三つの郷づくり」の実現により市民が実感できるような成果重視の視点に立った行政運営を推進するとともに、職員の政策形成能力の向上が図れるように取り組んでいく。	